迷悟問答集

八
2772

特
5波ハ門
踏 1364
巻
ハ6
2772

天保八丁酉
三月十三日求之
蓮城寺義

遺稿回答集目録

一 天地ハ人ヲシテ報仏理ス事
二 地獄ハ仏法ニ事
三 ただ三法のみ
四 仏ガ法門ノ事
五 まんげ産ニ事
六 仏并ニ父母ニ事
七 ひまを道ニ事

東京帝国大学
和漢書
御書籍
玉井文庫

八　神楽くさうさの事

九　らひでんのさうさ

十　志田そわんでさうさ

十一　ゑんゆくの沙汰

十二　祐家のさうさ事

十三　食事くさのさう

十四　同志ものの事付人間うかのさう

十五　月見ひろひの沙汰

十六　月の上りん満月さう事

十七　年月定付三日月さう沙汰

十八　りんだうのさう

十九　年忘月忘さう事

廿　毎年毎年之事

廿一　和さうさ文十文さう

廿二　うかの沙汰

廿三　お湯

廿四　金銀銅鉄の事

廿五　山伏しぶき

廿六　女人ばかり山のる事

廿七　月水のこと

廿八　上戸下戸のぶき

廿九　うろむ法花ぶき

第一天地ごとに人ぶんの数仏ぶき事

抑ちやうとくたるの仏よりくをんぶんの数仏ぶき天のたかさ二万八千九百四十里ぶんにて横ぶ二万九千里男女数の精九億九百廿八人女の数八億九万四千八百廿八人女の数八億九万四千八百廿八人女の子宮方寸とうけ給ひしせうひきうんをとうびぐうくぶきなるゆえんわりくはざぶ中まも仏よ二仏ぶ法よ二法なりとぶ一つ二人一ぶいちやうにて釈尊乃わりたうつちゝ仏んぶ釈尊乃業仏法大日なぶくてぶゆゆくんぶ

縁にあるてもけごんなごんかうぞうこんしやかう
けゝ孫そんそうんゝ大そうそうぶつやうゝ名ぞてなく
ゝそれ孫ゝこゝ世ゝ界ゝ世ゝ界ゝぐゝじゝ世げせつちうや
の衆ハぞんぜあんあんごゝやう善薬ゝてうさ
ぐひあゝゝ仏とゝそれ孫ゝ釋ひんゝづまとゝとゝしゝゝづ
まゝ代ゝとゝそゝくゝうや　巻て曰ひ三界ゝ迷
惜よいゝく。因ゝゝうゝいひゝ方ゝ右ゝいひゝ方ゝ右ゝいひ
又ゝ無相ゝゝゝ

まんぐ云ふあらりんぬしやとて天台ふの中間て
つ律僧ふ律ざうひて会仏宗ナ会一会と云
相ぎんぎ仏とつぷまれぎうあもぴとつりさぴやう
や名字くだいあひ一仏ぷ一仏ぷ
うへで過去現在未来三世ぷ仏もぷんの胸ぷ
あり法理のおりさとつぷ法ぎうさんぷ同ぎ
ふて理をとへをおりくひるげゆへふ義ふまさ
げくぷとぷさ法ひて　関白一代雑理の中ふ
きんざやうとぷんぎんとぎんどうへぷ理ひうへ
なりとぷ仏ぷあうひぷうんあんざやうをぷくを
きひくさいじやうとんぷうへもあり法花理を

きんて現世二世ふうあひとぷんひうへもあひぷ
ひ法理ふて仏うさびありとんぷうへもぷ
くれどくさて法ふ法ぎんどうへあのくさいぢやう
と心仏世義ぎひぢどくにげぜひぎふやて
仏ぷうさびありとぷて法ぷあうべりしびふう
答て曰一仏一法とさうぷんぷをぷ仏
をづりのまりそひぷ先ぎふて天台のあひぷ
八方ぎうざうとぎふどくぎうやいぷ月ぷんと云
らざうとぷびんと云一句一字をぎくざうといへども
月んとぎうへを大学頭と云法花理ふ一句一得
ぷやうざうぷむぷやうぷうあんと云法ふりぷさう

とえば仏のこころをものづくしにあらはすやう
乃ぞにつくづく八宗十宗のこころをなぞ
めんこうとは二法にしかしとは法とはきは仏
かとあらはすなり法はあらはすなり仏と法と不二
也あらはの身をそなへうちの仏法とこそ仏
と二仏なり法と二法なり
とりもなほ和の理なり
あはせものづくし紙に祈の名をそなへやうとこそ
とだてぬきをよくくれどくちんに祈くれん
のこころをそなへぬきとなるとちんば一五
不二法実義とはなにとこそ仏

ありがたしくしをあらはすなり和のこころやうげひのあるべ
也なのこころをそなへ法華やう大日大仏はるかに又
祈地水火風空のなるべし又方よえをそなへ
くいの東のあをそなへ南の月法華は西すなやうはあり月
のあるべ大日は中をそなへあるべやうはそなへ時
なのをくは地祈をそなへ祈のあるべみぎは
あるべやうは風祈のなるべ大日は空祈のなるべ
うがゆくよ祈うがちんをいとものづくしにはこの
かうくひあがうまんつくむろ時は祈うがをやうがひも
かうくひとなつて祈也

二地獄こ法

同て曰わづらいの地水火風をとりやめくぼとす
死る時は必ず祈名くるべし名号を唱へいづまれば
こひが地獄へおちんと又法然一仏一法をとうまでが
おんうんをとりておもひさだめよかの人あり
まあらくう　答て曰一仏一法うしてどれを
ゆへは法花法華よりは法法華法と世間相常住と
法華の大日法華はゆいうくちちやうつやうよりは人
うんせつうとうく或は我見自心形如月輪と説
けうん法華は三乗唯一心心不無別法心仏及衆生
是三無差別とうれ法華はいづれ一仏乗なるべし
うさ法華ひうくうまけ仏ほけうんの衆生ひのとをいて

ぼんよりうを仏ほけうんはうなんぼんへいづまれば祈
ぢごくにおちんやうとうんの服は地獄へおちんと
こいおくはは遠人はぢごくへ落ちんこいあるべき
ゆへは身所舎をとれぐらうんくきんこいて
ぐらーみとうる也但ひうきうぐらうんくくう異と
ありざい人となりて此一心に芸相こんぐん也
三ちで三ばの事
同て曰ちで三ば川は極楽と世界ちと南の
わかの方へ行のまのうちうの地獄と云へ血天地ぐでく也ちでの山とはいうあ
ぐうれぐんぐんとせうくぐうがんあうぐんぐうこ

ゝとんでこうちやうれいをとり　てあるときでのぞいて
よるのんくれんゆ中ゆるるに盆大地がきでのやゆ
ゆ三ぼ川とゝいつてぞんぎうんちのごとくゝ川とゝんに
こゝをなりたゝゆゝよ盆大地が三ぼ川ゝ極楽とゝいつを
盆大地が極楽ゆなりたるをつくりたるとゝいまゝ仏きと
ゆるゆ仏性とゝうゝだこのむづきとゆくゝふづきよ
なり仏ちんなりゆゝよちんみよごくらくとゝゆや
うゝゆゝよ遠方三界滅悟五十方京ゆ来盆東西
ゆゝ有南ゆゝ盆大地と極楽ゝゝ盆大地が
ぢくゝゆゝちくどちやうどゝゝゝ海さみちんのきよさゆ

四佛芽のまき

同くゝ曰がちんゆりくゝまゝたゝとみ仏とかちつの
きやがつゆのやうよんゆゝ　養て曰佛ゆ
いつゝとゝ無ん無為無相と佛とゝゝゝ芽とゝいつて
ぞうぐひのゝんゝそゝ月んゝの仏と笑ゆとゝいゝ
ちゝさちんゆゝぐゝゝざゆゝよまゝゝゝ花ゆさとれで
芽ゝ遠悟月ゝ実ゝ新芽とゝいつとゝのおとゆみと
云ゝゝなりゆゝ我ゝがちんでゝきゝ西ちんかうゝよぢう
ちんゆとゝまゝをさゝちゝ新世芽とゝなづく
ゆとゝいつとゝそゆゝひよゝゝゝうとゝいゝよゝゝゝありちん
でうゆとゝそゆゝひ西門ゝゝくゝおゝとちゝ玉とゝさゝ
とゝゆゝとゝゝづく文殊とゝいゝみのゝゝゝとゝゝのゝゝゝ

みてだまとぶんぎのるもんぞものづうしぞうもんを
ぱらうぶんじゅとぶづく善賢とハぱのり移くぢ
うしとぶつぶのこるぞおまゆくとハ三界よ住藩もる
とぞこもんぢうりぱくぢ不とかうしとぶつあり
地義とハぱようること云ぶるぞんぞ住藩もると
ひんぢゆしさむざやうるもしぞみくざうぞ地よかく
あくぐぞくくぶぢざうとなづく虛空義といて
むあしくぶくるとぶぞうこなり一切衆生むあ
くぶぞんぢ自中よきぞもぢざやうぞ移みくざう
どこうざうとなづくぢかぞ業藩もぶくれとくん
法よあしゆうあとぶづくるぞ

五蓮花座のまき

問く曰仏芽出んげぶまし
かづくん家よりうどぶまんげまれ
花あるくん中ゆ出んげまくくるゆぶうん
答て曰月のまんよ生ぶるぶのくぶ秋くぶ
腸中ゆ蓮花るぶまんげのうんぶ法るぶ法と
いるくんぶんごま蓮んのくあよ絵ざうゆ不ざう
ゆぶのくるぶ蓮ぶんとぶ仏ぶまよぶのくぶまくさ秋なり
むゆのうぶ蓮花ぶあくきんをゆくむ時ぶぎうん蓮
若心とぶんくむ時ぶぎうん蓮

六仏芽色おくるゆ

問て曰仏ハ金色ニ光明ハ白色なるこゝ仏の相なるかと
答て曰仏金色なるゆゑ光明赤白二ツ
合して金色也仏合ちうちよ仏性あるゆゑ山河
草木ともにぶつぜんなれ仏ハ山河草木ハ白色なるゆゑに
ぜん白色ニ成の白ひを仏ぐ光とたのうこゝろ也うが
ゆへよつまひのえん人となり無の形をかくるどを
以の形をぶぐとこゝ

七ツまてを道のあ

問て曰ハまてを道とかんうちんあるすて
もしくいう　答て曰又大ハまハ式ハ一ハの

大仏のぶんさんぶくハ海ちうにがんあのをぐこゝ
ひめうがんあのの色ハぜんちうゆゑ也ぶれまたりて
あり仏菩薩ハ山くまてぶん中ハやうやうごとかうう
ぐゆへハ前生の胸中をあらひ表ちうぶと
しあひぜん馬頭の赤色なるハあひ移んあひく
のちゆくあくとこんがんうひたのひとぐゆゑ也のひ
らくれありていろいろくぶかあらちうちうとんあく
ありて中こうちうのごとし仏胸中をたのうて
をあてんだうとぶうくまう移へまうくちんの
あるゆゑいぐてんちうでんぶんざいてんハうんぎん
ちの三ぐくのをぐゆゑりうくのてんだうをちんぎん

たゞうち敷物をもちんどうの物ごうぢんのごとくぶう
がゆへよてんぬさまつくごとくもんどうもこで
ぬくとを結るとぐく帝潘ちうぶ理あるもだゞ
ぶうおのざいかうのぬくまゝふのこび

八神祇のこと

問く曰神と云ハ何のものぞ也の神れ神あつて所
生ハ神と如祇ーのよう　答曰神といハむ
めうがんをふとぬくひあくまこの神といふ字を
たましゐとうひちやだんといふちよなるも
赤白二てひとをくのまこざうぐらもやうがゆへり実
の神ハまえぬじやうをきうえびまゝひゆるり。

けがまうくその神のきざくなうるゆいちやもざう
のきんぐ源落よりうん元生れたまゝ神ね一
こいやうくきんを神ぐまうぶ神となう神とな
まこだきこざくんきんめいぐんぐん大の神とゞ
きもうこうのごとまりうぶつけなうやる井とゆう
くゞのぐかんぬーやうのごうやふまれこうを
んぐでゆをいい三神のうーみを深や

九雷でんの事

問く曰雷のつゞみをうちたゝぬーまゝ
ぐこうひゞのぐくぐいん　答く曰らいハ三
雲ゞまのうつてうぢやうやれもうハ眼の光也

ぼくそうのようにうつぶしぬこまをとひろ
かつてトウひのぶつくすに海ようすわりあとをんてく
三種のくるしみ滅ぶよせしむ方便よりあと
ひしまつあるぐゆへ法花法苑御耳露法雨滅
塗炭煩悩之焔とぶ比丘の百年に神国ようぶつく
大山岩屋宝珠住給ふ

十三日そあんでこのよ

同じく旦一切衆生ごとくに神とぶくせむ
ぶ四そあんでこぶく神ようとぶ比丘神いぶるあ
うしぶくうしてに神とたやまいぶこまむ
あるゆへしんよ　巻て曰迷のくるゆへ病わかく

まべしまゆへいこあくだうのぶくなひのあぶゆそ
の名をぶらぐひぶつこんやぶみ付ぶくすぶくぶ名付ぶ
あをぶらひなのやまんまう種んなくまいとなりこ
男女ぶつこまやこます。四よひのぶちんをやむせ。病ちん
ぐんをぶこぶみ。我ぶぐぶ。又神ぶぐとなる不病となる
水神ようぶをませで。病ちんの病とある。火神ぶ
種ぶこまをません種ん病となる。風こいようぶをまも
で。風気となるぶぶゆへよりんをぐ種ぶこまをいて
治ちべ。種ぶこまをぐぶんをもって治ちべ。そハ
本ぶの後ぶげこやうれ根ぶいぶく食ぶりあぶ
と姫おくこうとなぶこまあぶ。色ぶんぶ種ぶり

くすり給へ給へ。低口季よりくすり。表皮ハ。
給つゝ。ゆ。ゆ。ハ。ゆ。ゆ。ゆ。水ハ。ゆ。老也。秋冬ハ給つゝ
ゆ。ゆ。ゆ。

なくぶつぽとぼうえをべしさるくぶつくんしぶぜんべ
くしべさいかうとりつくんぼうぼんよぶ楽をもれ
ゆへよむつもやくこうとなべきものやさいかうようんぢゆく
して仏果をもめぐりのどたくんぼ壹塔を作りニ変
修をとらかうもくしぶくめうるとんにあまはぜん
ごんとなるせびいぶよ和も他ともあれなごそなる武
んとを平等利益と云ふ初んいぶくよだうようあく
じりよのなびとんれだ。さいかう取合せびして
ぶをこのぶんぐをぶぢらぐんさいよりの若ごうんを
なーがびひとをうんぶをふくんのさくぶ果
ぢんよりくべーぶ果ぶ初んふくをさくちび

ぶ地よりぶをなくくむべ
十二縁家ぶ法ぢるる
向く曰八宗十宗の縁をの作て紙ちうんく
なくとんぶ縁ぶ釈るぶ平等一みとをれ縁ひ
よ宗をべぐてく何ぶみのべぐくなくびはり
養て曰ちうよをもくくさるやうをなく縁
ひぶ処よりさうん曰よりくぶ宗とありくなるま
むあのかくぶあるくぶて一ちうや法よ二法の
とぞんぐぶ宗と云宗をとあるむぢあの一
ぶをくて云ちうとりなのちうめびして紙い
何ちうとりがくぶ

十三食穀のゆゑのこと

問て曰食物よりこそ人こそ眞鳥ちくるいわ云。
食穀ものもこそ仏性なり仏性こそ人をめ
ぐまんめ食とこそ世ゝ戒のうち。
世一ハ穀生こそ今佛ハ養ハ生こそ花。
灯明も仏性ハ佛の毒祝よりのこそ人出ぬ
穀ナこそ食こそも仏性ハ眞ものを食こそ
ぶ書ム　答て曰仏ハ酒こそ世ゝ戒ハ
戒十戒二百八十戒五百戒を先非ハ法事迷
人のあくゆゑ法に深法華元信堅
固者とさ法ぶ文のゆゑハ深迷人のあり

ハ法ぶなりたゞひとりこそ
なくハ迷人ハ穀生ハさらび仏父母をと穀をべ
ハ出ぬハぶよりんゆゑこそだんどこそ出ぬ美
別ぶこそ仏ハ仏神ハ酒祝香ハ灯明
ぶ法ぶ穀ものを迷人ハ仏ハ仏ハ
なりさこそ人ハぶこそ人ハ世ゝ
ぶこそなり迷ひ穀ハ祝ハ
がんぶこそこそ一仏性ハけ
のまハ善悪こそ迷ハ表裏ぶよ迷
ゆゑ食ハたゞ人ハ迷人を祝ハ仏の
文をこそなむ神ハ人ハ迷人ハ

八戒てうあうく我なるこの居酒こそのゆへに地獄に堕し。特
軍おのもゝ多数せく我ゆひつまを女頻肉食を。
ゝゝゝびしてパ家十家ハ家ゆゝ酒ゝ酒ゝとゝ仏
いゝゝどゝくゝ地獄ゝまひ地獄よりあつゝこんぐんを
但今時ハ善悪ハ十悪をしてゝこゝひ多ゝ

十四食鄭品付人間のかの事

問く曰倉鄭ありて志かゝゝゝ別なゝくゝ一切衆
生問ゝく仏ゝゝ仏ゝゝゝくゝゝなゝくゝありてゝくゝ
半ゝ審ゝ　答く曰一切の衆おゝ法星ゝ
志ゝなゝくゝくゝ仏ゝ一仏性ゝゝくゝくゝ
べゝかゝゝゝゝ不同なゝくゝとゝ

十五日月星ひゝのゝゝゝ
問て曰日月星ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ　答て曰日天ハ一切衆生の母なり
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

くぐさぶつ、ぞうくんのうりさは、あまたまりしかばなり
ぞうくんぶつまれいぶぜんまえのまつりなり星と月
くて天のみこのうりゆへよ。日むまるくと書くなり命志
やう。まつりよりて形ろ畫ゑ中れ光北ちあこ
やだうさ八万ゆぎあんの山ごと巨別べ山圍いぶるこ
の面こ宗代めぐりぶつよ。ときさ西れ形ろ也自婦かく
のごくとも

十六月れ上ろん滿月のる

同く曰月の上ろん滿月のぶうらぶのこんぶるやべきや
答て曰上ろんい天の方生れ月とまけ白神よりるも
ぶるゆへよ上ゑ滿月い天地同こん方和げこん下

くいりぶんぐあぶるよ。ぶのくりて。ぶまん月と

十七年月日れこぐまるる

同く曰一年を十二ケ月よ定ぶ日と一ケ月り定
雲夏秋冬と四季のうりめ何とぶんぶるべきや
答て曰一年とぐまるゆ流生れ初ぶさと
天神七代地神ぶ代のぶ神とおくりぶ十二神へ
三十日づうり導護しぶるゆへよ一ケ月と定むれ
神い一日づぶまぐりぶぐむ也ぐ一時づ守りぶぶ
ゆへよ一切成ぶまぐくぶ神の氏ぶへのぐる時さ
年れ神とぶなりて。ぶ也ぐこしぶゆぐうがゆへり
ぶの年の人いうしの神の氏ぶへくれぐくぶ

二ぢんのうぢこゑ四節ハ一切病生ハ光病死又
生住異滅の四相をたのしうしてこゑ苦来生ありハを
のづゝ一切みいてうして生おわや異苦来おまひて
枝葉さうなまゝ住おへ秋苦来ハうばくこゑへ
うぢ十業ゞうりうりみ千道よりうちうりのうく
ゑんぢうり四くあまこゑ異おへ冬ハ苦来枝葉うも
うちさむくこうりうハみ千まそひ牙
みぢ目みゝび耳ゝとさうくどちんうくひゝ移つきお
とうつうハ滅おへ月滅ゝとくのゝく頼うの取出
ざうハ天地和合して原こうり三日月を生ゞとれ
徐をたのさうくへと三日月うりみうの取まうくま

月なうるゆ人ぐんのひ牙ハむまゝそぶう徐をとう也
しむ十日うりナ六日まゝぐひ牙よまん月あうるゆ
人ぐんのざうんあう徐をとうもーめナ七日うりゆ三
日の取までひ牙よおそくあうるゆ人ぐうのおうう
あう徐をとうもーむ四日うり暗日までハ原こゝ
取なうる人ぐんけ滅ちうるゆをうもーむ月けあう
つきあうるゆ人ぐんの生滅ちとひゝどもあのゝ
已心仏ハ生死なうゆへ三十日のうりうり裏
滅の徐をうもーむうハ徐人異えなうるゆへ

十八いん道の事

同く白仏法住道人をうもーうとひんなこいよ

まつたくこれは祈願のつゝしんなり
ばかりにてうぶの死人いたて枯木ばかりの
のことなりうぶくなる物とかばらびさこの
ためにゆめとゝしゆうよびまんいづまのぼんぐさ
くべしや　答て曰ぼんだうとゝつて逆人の祝
義をゝらまらまとゝして死人をのごうあく
死人をの中をふくむがごとくとゝ西せーむとゝん
だうとゝいつゝ他力よ内服（ドリキ）自力のれうん自力の
服とゝ元ゝうべしせの道とゝ道とゝゆうよゝ
ゝこんぼんをのごうゝ悟人ゝふくまんよゝごこう
どゝのゝ弟ゝとゝ見ゝて仏祖ゝ超越とゝ

為ゝゝやゝだうまのびんだとゝらいぼだうゝざれ
だうゝとゝなり

十九年長月長の事

問て曰ぼ年長とゝびゝ月長とゝいひゝゆうまゝ飯と
そのゝ番花ゝうゝやゝ海こゝうゝゝ海こゝうゝ
長者ゝくゝもうくゝいゝ　答て曰の食のくゝ
一粒一滴もちゝびんゝ但月長とゝゝざまゝべかの
まうもんゝ家のざいかうよゝれまびざいかうを三
寶偽ゝよゝかゝこゝもだゝゆゝうまゝ逆ゝ祝ゝ

二十為露霜雪の事

問て曰為露霜雪ゝ何ゝ

地ようぞくとみしは雷雲はたちまち降るとみえんぺいん
巻て曰あはやういけばこのさてもやたりて天よ降り
陽気となるくやのみとなりて雨はこの水なるの
はるはるとうはなるのぐりうと霧と云雲はこの霧のうんじ
降りてぐさまうと雨と云雲は天の水気ぐもこの
地上のうつちをいと云あり四ぜん三国よ降る天竺
よりはつるやうじ四せんのぐでうこうぜんけつといふ
去るはがうひせんのぐでうこうぜん澍長雲地といふ我
てうこうは富士山のぐうこうぜやうは関東と云地こうて
のぼる気雲はと澄へ雨はは地大のいきぐもはは大
いきぐ雲はは大のいきぐ霧はは地大のいきぐ大

のい義ぐ

廿一雲の又色ナ色のうち

問く曰雲のぐしうぐ又めてはの根源ま
巻て曰あ降はいきぐ降りうぐ雲となるぐ地大のいき
はぐ白雲ぐ地大のいきはぐ白雲ぐなるぐ地大のいき
赤雲ぐ地大の息はぐ赤雲ぐ地大のいきはぐ黄雲ぐ
ぐ赤色はぐ色はぐ色はぐまうじえぐ紫雲ぐ紫色に
ぐ色はぐまうじえぐぬぐうんしぐ白色はぐ色はぐ
じえぐぐうんぐ義ぐ義ぐぐぐぐぐぐぐぐ

廿二うしかのぐうぐうぐ

問く曰うしかのぐうしかのぐうの時はは居ぐ天竺

のうこいぽうこうくわ　　巻く曰ぱ山蛭はかキへ蛭を
はうこか同時に潮干いにそうられは海中たくなる
みつる時はぬいうよりかつがゆへよ二蛭をみつらを
ぐそくをはこ大蛭となる時は周遍法蛭こ小身
となる時はうぐうやうがいゆへ法蛭と称とは一種なり
ぽうこに月男とんはだ　ぐいさうらへは時は
そうこだうくなるかへある時はぬいうなるこ三ぐいの
ぐうかのぐうらひ元皇はいさあるがごとしぐうは
とせんをもぐしかわなるか井河水はあるか
こ川おぐ流積て海となるゆへようこはびをう
ぐうくあるか河の水なるこを稲くぬつまるゆへ

うかのぐうと蛭をなるはぐ稲のうぐ
なるゆへよりぐのおあぐこいおりすうこ毛水と
おくへ人のうこをはぐうこを也

廿三お湯の事

問く曰お湯はやうの根源あるこくこを答て曰名難中こ天端より今山國こんこんみ
ぬんの時大地こるゆ大火あるうくがんでんを海さ
ちるうゆ二千ばうめんゆ其火今を大地の底よ
あるく大山ようあるゆ水火気沸て湯となるを
あるゆ夢の水ぬ本のこるうよてうこなるゆへひの
おくへ越中のうそ山信濃の伊豆保山伊豆の大島

あるやうな山おりよみ侍世まもなくよりくのいのち
十年をすぎるまもなく二年さうくんうつもろかくの
じとくなるけのかくぼ生慨あるゆへせこまてこそ天
台おのぼりせ

北国金銀銅鉄のくせ

同く曰金銀銅鉄行所のくんくんの拾ろて
答て曰金ハ石れ積りせ　ぶんのいさ霧のごくかくく
積く金となる銀ハ氷れ積せぶんのいさ若の四大
ぶゆつて石ろくとなるなのくハいさごのつりなろ
いさごの息ぶりくまつて銅となるなろがくを
薬れ木の枝葉根合し積てなるがくとなるが

地水なるゆへよ鉄ハ土よあつてなるこんぶん
どうハ石水積がゆへみなるなるびちゆぐなるが積のろ
ねくすぐなるくハ銀となるべさなるべめくこまてこを
水のつりせ天地積く日月のごくく金銀銅鉄も
のろくれ積りせ

北国山伏のぼりくせ

同く曰祐宗ありくましくゆ中ゆ山伏道男女の
先達とつひ白神よおを立ろのぼあとさうげを氏
いみ素結ていれるせ寄ろて　答て曰山伏の
根源大日如来のなんぶんぶんのでんでんのでんろうてを
つとうめ弁せまくまでくうあハ熊野山まやうぐでんせ

うがゆへよ大業いこんいうらいのだ日九のまんだ〜
又百余ゑるぞ名れ并ゑるぞ〜さいざうらいの大日十
三ゑれまんだ〜ぞ七百余ゑるゑわりさいやうぼのゑ
いむしむぢう冥知うもみざうらんのゑれもんうせ
ざうぞ左ゑゑ天神七代いざみぢぞなゑれみゑ一女三
男と生まゑ国代修ゑゑ
ゑうざやうれ〜〜〜ぞ又ぢのりうらんと業〜ぞ
の右十三のゑくらぢ大まんざ〜ぞ生たん
三ぢうをむとびゑあけさいらんのまんざ〜九ゑむ
とびこあ修ようまやうぬれまんざ〜ぞ浦ゑまゑめ
ぢみゑうぢれりら右ぞ〜ぞゆくぢやうとりら西きらい

東海道山東北陸道山陰道山陽南海道西海道とへうゑ生
れとうゑ〜〜ぞんゑうぞゑうんをなうう〜むゑう
のぞんゑうをぞゑうびしてぞゑ修縁いむまゑぞん
ゑのぞんをいゑんゑ越中のゑて山かゑまんゑ白山
第根三修いゑ道のゑうぢ中ゑ系精のへいら道へ
ゑむゑくゑ山伏いら道とゑうゑ修ゑくすれ善若ゑ
系のぞゑゑんいゆくゑ中ゑ修ゑ山修ゑ系浄ゑくぞなさん
けいのぞゑぐ〜いぞ西ゑ道ぞれ〜ざい〜やうをぞうめ
ゑ仕ゑゑ十代のぞ門さうぢん天皇ぞふゑ仏神と修
〜ぞうんの行者ぞやうぐでんゑんげ〜ぞ縁聖
山とゑゑ〜ゑ時ゑ業ぞうさ山ゑ修善ゑ生ゑいて

船の業と四えしてちりぬ善物はくこれ仏神
そうしてこころ無縁とのぶくこれこころにぶつ
ぶんでんそうとぶや

廿六女人けつういんのくす

同く曰男女一仏性なりよ女はがごろ山ぶくり
おりくは夫仏を仏とはぶ仏のりん
ひとまや姫ろんれぶよやぶ業師如来ものちゆくぶえん
の姫夫やこのざうういのだ日ぶりんの如来と女人な
くに仏法仏ものそうくに女人ハ仏ぶくーとう
けるぶりん富ま

善く曰女色形をもれ
ぶ相のとりやと百戒れ中ものんぶがうを

のんがんやく仏とくれぶやうとぶりんぶうりせ
ひとろく女ハちうぶくぶりきゆんりくとれりひ
がんるうのさうりくなるゆんやぶ仏性なれぐゆんに仏むさう
ハがんるうぬりさゆんよ仏性なれぐゆんに仏むさう
れとりりん男女の差別ものりまとぶ自ふん
軌りぬりく男女れさうをぶりびに仏ちんを
ぶりくぶりさや

廿七女人月水のさくれる

同く曰女三十日れうりよで変れ月水となる男女の
尚不富りく
善く曰男のるーハ天り
くぶる女れるーハぶとおろうぶゆんまんやう

の事。女人腹をして。男女あり。人間基源。うれがゆへ。三十日のあんらく。種子。月水。だう。念。のささけハ。ひるべ。そこ。ひるいの。ハ。月水。とかんべ。第四。となる。ゆへ。乳。のむ。ハ。乳。なり。ゆへ。

なのさ。ゆへ。ぞくべと。

七八月腦六月の事

同く白月。ざう。ふ。ふ。ふ

仏理は書しがたく言葉の理は会花しがたし

迷悟問答集手

日本之廣事西より東へ二千八百里ゆより南へ又一百廿里

寛永癸未孟春吉日

明和二乙酉歳中春上巳

如月氏

盛正所持

右ハ長年中ハ人ゑ貴之新ニ表装して末のゝ人へ傳

日月清明南へし

席席